

平成29年度第2回さぬき市総合教育会議議事録

1 開催日時	平成29年10月4日(水) 開会 午後3時00分 閉会 午後6時10分		
2 場所	さぬき市役所本庁302会議室		
3 出席者	市長	大山 茂樹	
	教育委員会	安藤 正倫	
		徳田 二三男	
		日向 和加子	
		得丸 慶子	
		岡 裕子	
	欠席者	細川 哲士	
	事務局	総務部長	向井 健二
		予算調整室長	多田 千穂
		教育部長	間島 憲仁
		教育総務課長	中川 勝幸
		学校教育課長	山下 隆則
		生涯学習課長	間嶋 文一
学校再編対策室長		山田 謙二	
幼保連携推進室長		富田 克美	
教育総務課副主幹		梶谷 拓郎	
教育総務課主査	佐藤 理絵		
その他説明等のため出席した者	なし		
4 会議に付した協議・調整事項	(1) 平成30年度における当初予算編成に向けた方針について (2) その他		
5 特記事項	傍聴人2名		
6 会議内容	開会		
教育部長	平成29年度第2回さぬき市総合教育会議を開会したいと思います。 開会に当たり、まず、市長から御挨拶をお願いします。		
市長	(挨拶)		
教育部長	続いて、教育委員会教育長から御挨拶をお願いします。		
教育長	(挨拶)		
協議・調整事項	さぬき市総合教育会議運営規程第3条の規定に基づき、協議・調整事項について、ここからの議事進行は、市長をお願いします。		

市長

それでは、議題に入ります。

さぬき市も合併して今、ちょうど16年目に入っています。そういうことから言えば、中学校を卒業して、高校1年生になったという段階です。皆さんも、高校1年生の時のあのフレッシュな気持ちをもう一度思い出し、非常に爽やかな気持ちで教育についての御意見をいただけると幸いかなと思います。

最初に、平成30年度における予算編成に向けた方針についてということで、来年度予算の方向性に関して、まずは市長報告をさせていただきます。

さぬき市は、平成14年に合併をしたわけですが、これまで起債の発行が認められていた合併特例債が、今年度をもって終了します。この合併特例債は、借金をして事業をする場合は、その95パーセントについて借金が可能で、その借金をした元利合計の7割を地方交付税として交付してくれるため、実質的にその借金の7割を国が負担するというものです。また、合併算定替といって、合併前の旧5町ごとに算定した交付税がこれまで交付されていましたが、こちらも今年度をもって終了し、来年度からは純粹に一つの市として交付税が算定されることとなります。したがって、来年度の予算は、今まで以上に非常に厳しいことになることが、既に明らかです。

そうしたことが想定されているため、予算調整室に指示して、向こう10年間の収支見込みを試算しました。その中で、5年以内に実行しないと行政の効果が現れないもの、5年では無理だが少なくとも10年に実行しなければならないもの、とても10年以内では着手できないけれども将来的には実行しなければならないものという区分けをしています。その結果、まだ概算段階ですが、ここ10年間で見ると、一般財源と言われている市が用意しなければならないお金が、二百数十億円足りないという状況です。基金と言われる市の貯金は、百五十億円くらいありますが、それを1円たりとも残さずに全部使ったとしても、まだ百二十億円くらい足りません。そのような状況の中で、平成30年度にどういう予算を組むのかということです。10年間で二百数十億円足りないということは、単純計算で、毎年二十数億円ずつ不足していることとなります。

一方、私も市長に就任し12年目を迎えておりますが、今まではあまりにも借金が多いということで、収入を中心に考え、いろいろな予算を組んできました。これを、きれいな言葉で言うと身の丈に合った予算というわけです。しかし、この身の丈に合った予算を第一に考えてやってきた12年間で振り返ってみると、気付くのが遅いのかかもしれませんが、果たしてそれで市民が幸せになれるのだろうか。実は、収入が先にあるのではなくて、やらなければならない事業が先にあるのではないかという気がしてきたのです。そのやらなければならない事業に、いくらお金が必要かということを経算して、その不足部分について、市民の皆さんで議論していただき、少しずつ負担していただくのはどうでしょうか。そうすれば、住民税を引き上げてまでも、その事業のためのお金を用意するのがいいのか、それとも、これまでどおり身の丈に合った予算展開が大事だから、その事業は不要だと判断すべきなのか、そういうことを真剣に議論すべき時がきたのではないかなと思っています。

	<p>初めから限界ばかり言うと、意見が出にくいと思いますが、まずは、来年度予算について、全般的に皆さんがお考えになっていることを聴かせてください。特に教育の分野で、さぬき市に足りていない、もう少しやらなければならないことや、来年度予算要求を行っていく中で、これは必要ないのではないかとか、これ以外にあれが必要ではないかといった、忌たんのない御意見をお聴きしたいです。例えば、先生の数が足りないから先生をもっと増やそうとか、いやいや、先生の数は少し減らして他のことに重点を置くべきだとか。全体的な話と、個別的な話を順番にお話しただいて、いただいた御意見の内容を中心に、予算編成に向けた議論を深めていきたいと思っています。</p> <p>それでは、1人ずつお願いします。</p>
教育委員	<p>現在、学校で課題になっており、早急な対応が求められている事項がいくつかあります。例えば、特別支援教育の充実、不登校・いじめ問題に対する取組、そして小学校での英語や道徳の教科化などです。</p> <p>そのような中で、特別支援教育支援員の方は、学校現場としても有り難いのではないかと思います。スクールカウンセラーは、先生方が専門家に意見を聴く機会も少ないので、より充実した体制を整備していただきたいです。</p> <p>それから、指導要領が変わると新しく指導書を買わなければならない、それには非常に費用が掛かるので、数年先を見越して、そういった辺りが充実するような予算要求をしようとしている点は、評価できます。</p> <p>ただ、市長が言われたように、さぬき市は予算が厳しいということで、なかなか一つの事業を推進していくのも大変ですよね。近所の方たちと話をする中で、働く場所があれば、もう少し人も住んでくれるのではないかという意見がありました。働く場所がより充実すれば、さぬき市を居住地として選択してもらえるのかなとも思います。</p> <p>また、住民税が少ないというのは、やはり人口減の理由が大きいのですよね。さぬき市の税収を増やす、何か策があればいいのですが。</p>
市長	<p>様々な御意見をいただきました。</p> <p>たくさんある中で一つだけと言われても難しいと思いますが、さぬき市の教育関係に関しては、例えば、もしお金があれば何を一番に取り組みたいですか。何が今、不十分なのでしょうか。</p>
教育委員	<p>やはり、特別支援教育支援員やスクールカウンセラーのような専門の先生の充実です。それから、子ども一人に1台のタブレットを設置している自治体もありますので、その辺りも気になります。</p>
市長	<p>特別支援教育について、これは理想を言えば、正規の教員を増やして、かつ支援員も増やすということだと思いますが、いただいた御意見は、正規教員の増員は難しいから支援員が必要だということですか。それとも、正規の教員では支援を要する子どもの対応が難しいから特別支援員が必要だということですか。どちらでしょうか。</p>
教育委員	<p>現状から考えると、市で雇用している特別支援教育支援員の配置を、少なくとも現状維持でお願いしたいということですか。</p>

市長	分かりました。また、後で伺います。 それでは次の委員、御意見を申し上げます。
教育委員	私は、設備面の充実よりも人材育成や研修などにお金を使ってほしいです。 例えば、外国語学習として外国語指導助手の先生を配置していますが、その先生と授業をどのように進めていけばいいのかといった特別研修のようなものを、英語の先生や小学校の先生に受けてもらいたいと思います。そういった点で、専門的な知識のある方の話を聴いたり、勉強会のようなものを開催したりすることに対しては、お金を出してもいいのではないかという気がしています。逆に、電子黒板は、各クラスに一台ずつは必要ないと思います。実際に稼働率がどれくらいなのかというのをきっちり数字で出してもらって、本当に必要なかどうかを検討したいですね。
市長	これは、打合せの上でおっしゃっているのではないですね。
教育委員	はい、違います。
市長	本音を言うてくださっているので、もっとお聴きしたいですね。
教育委員	設備面を充実する方が、予算としては出しやすいと思います。実際に物があって購入しましたというのが、シンプルで分かりやすいからです。でも、実際に英語の学習に電子黒板が必要かといえば、そうではないでしょう。むしろ、授業を成り立たせる教員の育成の方が大切だと思います。ですから、そういった面にお金を使っていたきたいのと、今、外国語指導助手は市内に3人配置されていますが、幼稚園や小学校の子ども向けの英語教育が専門的できるような方を更に追加配置し、その方に幼稚園と小学校は任せるようにするなど、もっと人材にお金を使っていたきたいと思います。
市長	それは、例として英語で話をされましたが、別に英語だけでなくいろいろな教科で、人材育成というのが少し不十分ではないかということですね。
教育委員	はい、そうです。 そのために、もっと専門的な知識を学ぶための勉強会に参加したり、第一線で活躍されている方を視察訪問したりするなど、そういった知識を学ぶ機会を作らないといけないと思います。ただ単に外国語指導助手を増員しましたというのではなくて、その外国語指導助手の先生と、どうやって授業を展開していくのかという具体的なことについて、もう少し勉強しなければいけないのではという気がしています。
市長	例えば、現実的に考えて、首都圏で活躍されている有名大学の教授に来てもらって話を聴くなど、そういうことを検討していけば、具体的な人材育成に結びつくのでしょうか。
教育委員	それもいいとは思いますが、実際に先進地の授業を見学させてもらったり、あるいはネイティブに近い日本人の先生をさぬき市で雇用したりして、もっと授業がレベルアップできるようなことをしていただきたいと思います。
市長	よく分かりました。 まだ他にも御意見があると思いますが、次の委員お願いします。
教育委員	先ほど市長が、さぬき市が16年目に突入し初心に帰るとの話があったの

	<p>で、予算ありきの話ではありますが、さぬき市が誕生したときの私が思い描いていた未来像について、少し話をさせてください。</p> <p>合併当初、5町が一緒になったということで、さぬき市の中において、いろいろな学校や幼稚園と交流ができるのではないかと期待がありました。例えば、今までは町単位でばらばらだったものが、市になれば全体で何かをするということです。子どもに限らず大人もそうですが、市全体で一緒になって何かできる事業というのがあったら、とても楽しいのではないかと気がしていました。しかしながら、16年が経過した今もなお、個々の学校同士のつながりがまだ希薄ではないでしょうか。</p> <p>私は、教育委員ということで、いろいろな場所に研修に行かせていただいています。その中で印象に残っているのが兵庫県のキャリア教育です。そこでは、市全体の中学生が同じ日に、一斉に職場体験を行うということでした。地域の様々な職業の方が市内の中学生を受け入れ、「今、中学生が職場体験中です。」というのぼりを立てて、どこの中学生も一緒になって職場体験を行なっているそうです。それを聞いて、大変感銘を受けました。さぬき市でも、そういったように学校に関係なく子どもたち皆が何か同じことに取り組むという機会があれば、横のつながりにととまらず、地域の一体感も生まれてくるのではないかなと思いました。</p> <p>それに、横のつながりというのも、統合するから隣の学校と合同行事をしようというのではなくて、さぬき市全体がまとまって何かをすることができたなら、私が合併当初に思い描いたさぬき市の理想像に少し近付いてくるのではないかなと思います。</p>
市長	<p>具体的に言えば、職場体験のようなことを、市内の中学校で日時を決めて、一斉に実施するというようなイメージでよろしいですか。他にイメージがあれば教えてください。</p>
教育委員	<p>運動会は、さすがに一緒にはできないかもしれませんね。</p>
市長	<p>運動会も、昔は区ごとに連合運動会がありましたね。それが全てではないとは思いますが、一事が万事で、そういったことがないために、全体としてさぬき市の中学生という意識が低いのかもかもしれません。自分はさぬき南中、志度中、長尾中の生徒だという意識はあっても、さぬき市の中学生という意識は持っていないのでしょうか。</p>
教育委員	<p>地域の方も、自分の地域の子どもたちには手を差し伸べるけれども、同じさぬき市の子であっても、その他の地区の子どもには無関心であることが多いような気がします。</p>
市長	<p>せっかくさぬき市になったのに、その効果が薄いということですね。今おっしゃったことは多分、合併効果が感じられないほんの一例だと思いますので、また後でお聴きしたいです。</p> <p>では、次の委員をお願いします。</p>
教育委員	<p>私は、幼稚園のときから、ふるさと教育にもっと力を入れていただきたいです。居住地区を超えて、さぬき市がふるさとであるという認識を強く持つても</p>



	<p>守っていかなければいけませんね。</p> <p>それから、先ほどもふるさと学習のことが出ましたが、例えば、長尾中学校やさぬき南中学校の生徒が、平賀源内のことを知ろうとしているだろうかと考えると、そうではない気がします。育った地域のことは勉強するが、もう少し視野を広げれば、もっとさぬき市のことが更に見えてくるということにも気付いてほしいです。</p>
市長	<p>そうですね。そういうのも大事だと思います。井の中の蛙というのは、例えば悪いかもしれませんが、やはり自分の所は良いと認識することも、とても大事だと思います。そして、自分を褒め、自分に誇りを持つということは大切にしてほしいですが、それと同じくらい、他人のことも受け入れることのできる人間が増えてくると、本当の意味で、多様性のある社会ができると思うのです。</p> <p>しかし、多様性という言葉はきれいですが、要は一人一人が違うということです。一人一人が違くと、困ることだってあります。例えば、船でも右に曲がるときに、皆が同じ姿勢になってくれていた方が曲がりやすいでしょう。ところが、右に曲がろうとすると、違う姿勢をとる人だけっている。それでも、右に曲がらなければいけない。だから全体として、やっぱり右に曲がらないといけない、あるいは左に曲がらないといけないということを、皆が納得しながら、自分の考えをある程度は妥協というわけではありませんが、調整することが重要です。</p> <p>これまで皆さんからお聴きした意見は、多分根っこは同じでしょう。せっかく市になって、メリットもあるはずなのに、それが教育の中でいかされてない、何か徹底すればいいのに徹底されてないということをおっしゃっているのだと思います。</p> <p>例えばですが、1日は24時間しかないので、国語は何時間、算数は何時間というように学校で使える時間は決まっていますよね。これを各市町村の教育委員会の裁量で変更することはできるのですか。</p>
教育長	裁量は、ほとんどないです。
市長	特徴を持たせないのが、国の方針なのでしょうか。
教育長	たくさん詰め込み過ぎて、もう満杯です。時間割がびっしり詰まっています。
市長	国語の時間を半分にしても、古墳を見に行くというのは、できないものなのでしょうか。
教育長	難しいですね。
市長	それは困りました。
教育委員	イギリスは昔、ローカルカリキュラムで、地方ごとに教育課程が組まれていましたが、最近はナショナルカリキュラムで、どこへ行っても同じ教育課程です。日本に倣っているようですね。
教育長	日本のものを、外国で採り入れているのです。
市長	それは私が思うに、今の世の中、良い・悪いが非常に単純な社会になってい

	<p>るでしょう。昔は、良い、悪いという間に、良いような、悪いようなという、あいまいな部分があったじゃないですか。それが、人間が不幸になるのを防いできたように思います。ところが、今はあいまいなのを許さない風潮がありますよね。</p> <p>そのことと教育問題が全く同じというわけではないですが、どんな人間をどのように育てていくのかについては、もう少し幅を持たせて慎重に考えないといけないように思います。</p> <p>ただ、さぬき市の中学生だけが、どこの高等学校へも合格しないようになって困ります。だからせめて、可能な範囲で多様性を持たせるようなことで、かつ、委員が言われるような、特徴が持てる教育が進められたらいいですよ。全部に100パーセントを求め、肝心な所がおろそかになってしまっただけはいけません。肝心な所には核心を置いて、そこからプラスアルファについて、皆さんが言われたようなことができればいいなと思います。</p> <p>でも、それにはやはり、学習指導要領が関係してきますよね。</p>
教育委員	そうです。
市長	学習指導要領の中身はともかく、教科ごとに何時間は勉強しないといけないという形で指示があるのですか。
教育長	はい。
市長	それは、全国の教育委員会の中で、これはおかしいのではないかという議論みたいなのは、出てこないのですか。
教育長	<p>それはあります。しかし、それは頑として揺るがないのです。</p> <p>いわゆる総論賛成、各論反対で、子どもたちが時間的に大変だから、もう少しゆとりを持たせようというのは皆賛成です。しかし、教科ごとに議論すると、どこかの教科を1時間減らそうとすると、その教科の分野の方から反対があるのです。ですから、全くそういうことができずに、今度、英語を入れるのにも大変苦慮しています。</p>
市長	そんなことをしていたら、週休2日どころか、学校は週7日制にしないといけなくなりますね。
教育長	もう、入れるものばかりで、減らす手立てがありませんので。
市長	<p>本当は、そういうことは国が大まかな基準を作っておいて、裁量の範囲については各自治体の教育委員会で決められるようになればいいですよ。例えば、英語であれば年間に50時間から100時間の間で決めればいいのか。他で少なくしたところは、そこの教育委員会の裁量で足せば良いと思うのですが。</p> <p>そして、先ほどの話に戻りますが、みんなが同じ考え方、みんなが同じ好みになってしまったら、やりやすくなるかもしれませんが、何だか人間の幸せからは遠くなるような気がします。というのも、人間みんな同じことが幸せではないと思うからです。みんなそれぞれに幸せが違うのに、同じ幸せを求めるのは、幸せになれません。違う幸せも認め合えるような人間を育てるためには、もう少し幅を持たせて、その幅の中で教育を行えばいいと思います。極端な話ですが、</p>

	さぬき市の教育方針が合わないのであれば、高松市の中学校へ行きますというくらいのメリハリがあってもいいような気がするのです。
教育長	昔は、学校裁量や学級裁量という時間がありましたね。それもいつの間にか消えました。
市長	管理が行き届き過ぎたのでしょうか。
教育委員	<p>結局、教育内容はもう国が決めてしまっていますが、ただ教え方については、教員たちが工夫をして、子どもたちに教えるようになっていきます。また、子どもたち自らが問題を発見してそれを自分で解決できるような、いわゆる生きる力を育てるということに重きを置いているので、できるだけ子どもたちが主体となれる方法が採られています。</p> <p>以前は、極端な話ですが、授業ですからチョーク1本があれば、できないことはありませんでした。しかし、それでは一方的な伝達になってしまいます。そこで、子どもを主体にするためにはどうしたら良いかということを中心に考えて、授業の中で、例えばグループで話し合いをしたり、グループごとに意見をまとめて発表したりしているのです。</p> <p>そこで、先ほど話のあったタブレットの必要性の有無について話を戻すと、タブレットを子ども一人ずつに持たせて、自分の考えをそこに書いて発表させるといったように利用すれば、タブレットはすぐに集計もできるため、とても便利なのかなと思いました。今、教員たちは、子どもたちが主体的に学べるように日々模索しながら、あの手この手で授業をしているのが現状です。その中で、ICTの機械等が利活用できれば、非常に実用的です。</p> <p>そういった学びを通して、子どもたちが自分で考える力を育み、自分なりの解決方法を見つけて、どんな困難にも立ち向かえる子どもを育てることが、教育の主になってきているように思います。</p>
市長	<p>確かに昔から、読み・書き・そろばんができれば、社会の中で生きて行けるといわれてきました。</p> <p>しかし、そうやって育ってきても、社会に出て求められることは、まず自己責任ですよね。ですから、自分で考える力を育むというのは、非常に重要なことだと私も思います。</p> <p>これまでに各委員が述べられたふるさと教育、英語教育や学校を超えた様々な交流などを通して、この自分で考える力というものが培われると思いますが、やはり市の教育委員会だけの判断だけで全てを実施することは、お金があっても難しいことなのではないでしょうか。</p>
教育長	お金さえあれば、ある程度は可能でしょう。
市長	時間数は、少しは裁量が認められているのですか。例えば、算数の時間を少なくして英語をしたり、国語の時間を少なくして皆でグループ活動をしたり、ふるさと教育をしたりする。そういったことは、可能なのですか。
教育長	ほんの少しですが、できないことはないです。
市長	その少しというのは、極めて少しなのですか。
教育長	現在、さぬき市では、年間に6時間程度のゆとりの時間を持つことができ

	います。
市長	その6時間は、現在、何をしていますか。
教育長	様々な補習をしたり、理解に時間が掛かる子どもについて、繰り返しの時間として設定したりしています。それから、遠足等の校外学習や台風による臨時休校などがあれば、その分の勉強日数が足りないので、それに充てられるように少し幅を持たせています。
市長	先ほど兵庫県のキャリア教育の話が出ましたが、それは、どのようにしてその時間を捻出しているのでしょうか。
教育長	キャリア教育の職場体験は、夏休みに実施されているようです。
市長	夏休みなどのプラスアルファ部分なら、国や県は、特に何も文句を言うことはないのですか。
教育長	そうですね。
市長	でも、生徒は忙しくて大変ですね。
教育長	そうですね。
市長	何か良い方法はないものかと、悩んでしまいますね。 そしたら、いただいた御意見の中で、就学前からの英語教育というものがありました。早いうちからネイティブな外国語に触れる機会を持つことは、その子どもにとってはプラスになるケースが多いのでしょうか。
教育委員	小さい子に英語教育をすること自体に、私はあまり関心がありません。3歳の子にすらすらと話せる英語を教えても、それを継続していける社会ではないからです。3歳で高校生の英語が分かりますというのは、私は興味がありません。 むしろ、どこの国の人と出会っても仲良くできるとか、外国語を聞いたときに違和感なく接することができるというような土台を作るのに、幼児期の英語教育は必要かなと思っています。
市長	就学前くらいにそういう機会があればいいのにと考えられているのですね。
教育委員	英語などの外国語に親しんだり、外国人の先生と一緒に遊んだりして、人種の違いというのも受け入れられるような環境があればいいと思います。ただ、そこで外国語が話せるようになるというのは、なくてもいいと考えています。 就学前は、そういった機会を積み重ねていき、小学校でもう少しレベルアップしたものができればいいですね。
市長	小学校からの英語教育というのも、大学入試時の点数が良くなるからとか、社会人になったときに外国と取引をして輸出で儲けるためとか、そういった理由で始めるのも一つの考え方ではあるのですが、私は、そういうことを目的として早期の英語教育をするというのは、何かが違うという気がしています。委員が言われたように、早期に英語教育に取り組むことによって、その子の世界が広がり、自分の意思で、例えば将来アフリカへ行ってこんなことをしたいという夢を抱くなど、そういう動機付けになるような幼児の英語教育は大賛成です。国のためになるとか、金儲けのために英語を幼い時からするのは、それを結果として完全に否定するわけではありませんが、実利的過ぎる気がしてしま

	います。
教育委員	結局、誰かがどこかで儲けるために、教科の中に英語を入れたという部分もあるのかなと思います。
市長	きっとあるのでしょう。でも、その誰かというのが分からないじゃないですか。特定の人じゃないと思うのです。社会のシステムが、教育のそんなところまで浸透してきて支配しているというのは、怖いですよ。
教育委員	幼稚園に派遣される ALT の人数は増えたのですか。
教育長	現状維持です。
教育委員	うちの子が、小田幼稚園に通っているときに、近くの徳島文理大学に勤めていたカナダ人の御夫婦がおられ、頻繁に幼稚園に遊びに来てくれていたものです。子どもたちは、英語なんて分からないはずなのに、その御夫婦と楽しそうに話をしていました。 そのように、英語が生活の中で自然と子どもたちの耳に入ってくる環境こそが、子どもたちが英語を楽しく覚えられる一番の方法ではないかと思います。 ALT の先生にも、是非遊びの感覚で幼稚園を訪問していただきたいです。
幼保連携推進室長	現在は、各幼稚園に年間 3 日程度 ALT が訪問しています。
市長	それは、英語を忘れたのを待って、行っているだけではないですか。行っても行かなくても同じような気がします。
教育委員	幼稚園児からすれば、楽しいイベントという感じでしょうね。でも、それはそれでいいことだと思います。
市長	本当は、もう少し訪問回数を増やせたらいいと思います。 それから、ALT とは別に、小学校を訪問してくれている外国語活動支援員という方もいますよね。
学校教育課長	4 名です。
市長	今は、どんな形で関わってくれているのですか。
学校教育課長	モデル校の津田小学校に 2 名を配置しています。
市長	それは、日本人ですか。
学校教育課長	2 名とも英語が話せる日本人です。それ以外の小学校は、別の 2 名が順番に回っています。
市長	いろいろな人と接するという意味では、日本人よりも外国人の方が良いのでしょうか。
教育委員	そういう意味ではいいかも知れません。でも、結局外国人だからといって英語がうまく教えられるわけではないので、日本人の先生でも、きっちり教えられる方であれば、全く問題はないと思います。
市長	そのとおりですね。 では、ハード事業についても話をさせてください。ハード事業は議論しても仕方がないという御意見をあるかもしれませんが、今の学校の整備方法に対する不満や、こんなものがあれば良いという要望など、そういったものはありますか。

教育委員	急に言われても、難しいですね。
市長	委員の皆さんは、幼稚園や学校訪問に行かれますよね。訪問したときに、これは酷いと感じることや気になるところはありませんか。
教育委員	正直に言って、他の地区に比べたら、長尾校区の校舎が古いと感じています。もし、自分が長尾校区に住んでいたら、不満を持つと思います。雨漏りも酷いと聴いています。
教育委員	私は、仕事で学校を訪問することがありますが、やはり長尾小学校は、雨漏りや雨が吹き込んだときの壁の染みや、壁のひび割れが増えているというのを聴き、年々酷くなる状況を見ているので、いつまで待たせておくのかと思ってしまいます。
市長	いつまで待たせるのかは、この場では申し上げられませんが、俎上には載っています。特に古いものがあるというのは、認識していますので、まずはそれからでも手を付けたいと思っています。ただ、そこを修繕したり、建て直したりすることで、余計に次が建てにくくなり、将来的にやり直しがあってはいけません。ですから、将来の全体像を明確に捉えて、5年、10年、10年以降の中で、どの時期に実行するかということは、近々に明らかにしたいと考えています。明らかにして将来がはっきりすれば、今の状況は大変だけれども、それまでは何とか皆で協力しようとなってくれることを期待しています。やはり、いつになるか分からないというのが、一番対話しにくいと思うので、できる限り具体的な目標を明らかにしていきたいです。 私がお聴きしたかったのは、新しく建物を造るときに、こんなものがあればいいというようなことだったのですが、聴き方が悪かったのかもしれない。学校・幼稚園全般で構いませんので、ハード面でこんなものがあつたらいいという御要望はありませんか。
教育委員	私が思うに、結局一番いけないのは中途半端な建物です。
市長	メリハリがないのは、良くないですね。必要であれば造る、要らないのであればコンパクトにして、その代わり、そのお金を質の向上に充てたいですね。
教育委員	志度小学校に在職していたとき、志度小学校の改修工事のモデルは、津田小学校でした。津田小学校は、教室約2つ分のスペースを一つのクラスが使用できるため、志度小学校でもそういうことを考えていたのですが、津田小学校の廊下部分はそれなりに広いけれど、一つの教室として使うには狭すぎるのです。だから、少しもったいない気がしていました。
市長	斬新と言えば聞こえはいいですが、設計意図と実際の仕様が、上手くマッチしてない一つの例ですね。
教育委員	私は、できれば津田小学校のように広いのが理想です。
市長	他の委員で、学校施設や設備関係で、御要望やお気付きの点がありましたら、御発言ください。
教育委員	例えば、新しい学校を建築すると仮定して、授業に使うだけの建物ではなくて、地域の方も使えるような施設があつてもいいのかなと思っています。学校

	と地域の人と共存できるのが理想です。
市長	私も、本当にそう思います。 しかし、それを言うと、セキュリティ面で難しいとか、トイレの使用が困るとか、いろいろと御意見をいただくので、よくぞ、言ってくれました。
教育委員	図書館の観点からも言わせてください。 志度と寒川の住民は、地域に図書館があるので、利用しやすいと思いますが、長尾、大川、津田の住民が、図書館まで出かけるというのは、やはり一苦労だと思うのです。さぬき市全体で、読書活動に力を入れようとするならば、例えば、小・中学校の図書室を地域の方に対して開放してもいいのではないのでしょうか。
市長	図書館は一例で、学校の施設を学校だけが専用で使うのではなくて、地域の人にも使えるようにしたらどうかということでしょうか。
教育委員	はい。
市長	図書館の利用について、どこの地域の方がどこの図書館に本を借りに来ているかという統計を取ったことはありますか。
生涯学習課長	はい。地区ごとの利用者というのは、データとして持っています。
市長	そのデータ上は、どんな感じですか。 寒川地区の方は寒川図書館へ行くけれども、津田、大川、長尾地区の方が、志度図書館へ行ったり寒川図書館へ行ったりするのは、結構あるのでしょうか。ほとんどないのでしょうか。
生涯学習課長	利用割合から言うと、津田、大川地区の方は、図書館の利用頻度が低いです。
市長	例えば、寒川図書館であれば、山手に立地していることもあり、大川や長尾地区の方でも結構利用しているのでしょうか。
生涯学習課長	大川地区は、利用者が比較的少ないですね。
教育長	一番少ないのが大川地区、その次が津田地区、そして長尾地区です。
市長	大川地区は、基金を活用して、学校図書が非常に充実していることもあり、図書館を利用しなくても十分に図書に親しんでいるのかもしれないですね。
教育委員	私は、幼稚園の施設に関して意見があります。 やはり、幼稚園の施設では、子どもたちが遊ぶスペースをいっぱい取ってほしいです。個人的な意見として、志度幼稚園のような空間が理想です。志度幼稚園では、教室と廊下の境が全くなくて、子どもたちが教室からそのまま廊下に出て、廊下じゅうにテーブルで作った線路が広がっています。梅雨の時期は、天井から雨粒を表現した画用紙を吊るしたり、秋には新聞紙でお芋を作って吊るしたり、今は、平賀源内のお神酒天神を子どもたちで作成して、廊下飾ってありました。そういった、子どもたちが自由に発想して遊べるスペースは、非常に大事だと思います。
市長	ゆとりのある園舎の設計ということですね。
教育委員	志度幼稚園は、教室と廊下の全部が開放できますよね。
教育長	従来からの教室といえば、教室の前方と後方に入り口があり、その間は壁が

	あるというイメージだと思うのですが、志度幼稚園はそうではなくて、各教室の全ての出入口は真ん中にあるのです。だから、全部を開放してしまえば、教室と廊下の隔たりがなくなる設計になっています。
市長	子どもが、落ち着かないということはないのですか。
教育長	閉めてしまえば、そのまま教室として利用できるもので、全く気になりません。
市長	津田小学校も、同じように扉が閉まるのですか。
教育長	4枚か5枚扉になりますが、閉まります。
市長	志度幼稚園は、幸か不幸か、想定していたよりも、園児がかなり少なくなってきています。そういった意味でも、ゆとりというのか、無駄なスペースができてしまっていたので、この度、防災の備蓄置き場に活用したほどです。津田こども園の設計はどうなっていますか。
学校再編対策室長	教室から出ると廊下があって遊戯室があります。遊戯室の周りはオープンデッキになっていて、自由に行き来できるようになっています。
市長	それから、津田こども園では、園児だけではなく休みの日には誰でも自由に園の遊具が利用できないかと検討しています。しかし、もし休日に遊具で遊んでいた子どもがけがをしたら、誰が責任を取るのかという議論もあり、まだまだ調査・研究段階ではありますが、園の一部が公園としてもうまく機能できればいいなと思っています。 教育長は、他に意見はありませんか。
教育長	新しく造られた津田小学校でも志度小学校でもそうなのですが、特別支援学級が別棟に設置されていることについてです。私としては、学級と学級の間特別支援学級を配置することが希望です。そうすることで、休み時間や昼休みなど、今以上に積極的な交流が図れるのではないかなと思います。今は、棟を越えていかないと会えない構造になっています。
教育委員	たぶん、特別支援学級の子どもたちは人数が少ないので、教室の広さも半分程度にしていることが、関係しているのではないですか。やはり、同じ大きさの教室を並べて配置した方が、経費的には安くなるのでしょうか。だから、特別支援学級の教室も、一般的な教室と同じ広さにすれば、教室と教室の間に配置することが可能になるのかなと思います。 どこの学校も、特別支援学級の広さは、半分かくらいになっているのでしょうか。
市長	特別支援学級というのは、別に教室を設置しなければならないのですか。
教育長	学級として認めてもらうためには、そうする必要があります。 また、その子に応じたスピードで理解を深めてもらうためにも、別の教室で対応することが、非常に効果的だと思います。
市長	本当に、教室を別にする必要はあるのでしょうか。それは、正しく排除だと感じてしまいます。
教育委員	個に応じた指導という考え方です。
学校教育課長	先ほど委員が言われたように、同じサイズの教室を並べた方が、設計的にも

	単価が安いということがあり、別棟にならざるを得ないケースというのは、現実にあります。
市長	それは単に、間仕切りの都合だけでそうなっているということですよ。先生にとっても効率が良いから、別にしているということはないですか。
教育委員	効率が良いというより、第一にその子のことを考え、その子のペースで授業をしてくれる場所ということで、特別支援学級があるのだと思います。だから、その子も普通学級で授業は受けられるかもしれないけれども、普通学級よりもっと丁寧にゆっくり教えてくれて、しかも特別支援ならではの社会に役立つ様々な活動等を織り交ぜたカリキュラムが考えられているから、排除というよりは、その子にとって非常に実のある学校生活が送れるという趣旨で、特別支援学級が存在しているのだと私は理解しています。
教育委員	一緒に行く授業も、もちろんあります。社会や理科などは、一緒にすることが多いです。ただ、国語や算数のときは、個人個人のスピードに合わせてくれます。だから、それは排除ではないでしょう。
市長	それが、本当にその子のためなのでしょう。学校のためということはありませんか。子どものためなのであれば、私もそれは良いと思います。しかし、その子の周りの子どもたちに対して、あの子は特別支援学級の子なのだという意識を植え付けている気がします。
教育委員	そこは難しいところかもしれませんが、その子に分かるレベルで教えることができるというのは、やはり特別支援学級ならではのだと思います。
市長	それは、学校というのは教えるのが仕事なので、わざわざ別の教室へ行かなくても、休み時間などに先生が個別に教えたらいのではないですか。
教育委員	そういうレベルではないと思います。
教育長	いろいろな子どもたちがおりますので、結局集団の中にそぐわない性格の子どももいるわけです。それから、全く進度が合わない、理解ができないといった子どももたくさんおります。そういった子どもたちのための配慮という考え方です。
教育委員	保護者の希望で特別支援学級に入っているのであり、入っていない子どももいますよね。
教育長	特別支援学校に入るという選択肢の前に、特別支援学級というものがあります。よくあるのは、小学校では特別支援学級にいて、中学校から特別支援学校の中等部に入るというパターンです。
市長	その子のために考えて、そういった判断をしているのですよね。
教育委員	実際に、息子の友達で特別支援学級に通っている子がいましたが、部活動にも入っていましたし、一緒に野球もするし、社会や美術の授業などは一緒に受けるけれども、国語と数学の時間だけは、特別支援学級で受けていました。だから私の理解では、特別支援学級に所属しているというよりも、国語と数学の時間だけ特別支援学級で授業を受けたら、帰ってくるというような印象でした。
市長	原則では、特別支援学級が本拠地で、普通学級に時々来るというのではない

	ですか。
教育長	それは、二種類に分類できます。市長が言われたように特別支援学級に本拠地を置くのも一つですが、委員が言われたように「取り出し」と言って、国語や算数の授業だけ、特別支援学級でその子に合ったように丁寧に指導するというやり方も一つあるのです。 中学校に入ると、特別支援学級は「取り出し」が多いですね。
市長	そういうことについて、様々な差別意識につながったりはしませんか。 学校でも、部落差別をはじめとするあらゆる差別の心をなくそうとしているはずなのに、何か矛盾しているように思えてしまいます。
教育長	個人個人の思いなので、明確に否定はできませんが、でも、差別意識につながっていることはないと思っています。 石田小学校や造田小学校では、教室に間仕切りを入れてもらって、特別支援学級に子どもたちが自由に出入りできるようになっています。しかしこれは、教室が余っていたからできたことです。
市長	皆さんが声を揃えて別に教室を設置する方がいいと言うのだから、たぶんそれが良いのでしょうね。私の考え方が、少しいびつだったのかもしれませんが。
教育委員	普通教室で授業を受けても、授業にならないわけではないと思います。その子が同じクラスにいても全然問題はないけれども、その子がもっと理解ができる授業をしてもらえるのであれば、そっちで授業を受けさせてあげたいということですよ。
教育長	じっと座っているだけで、理解できずにそこに居るだけということになりがちなので。
市長	特別支援教室を同じ棟に設置するという事は、全く不可能な話ではないと思うので、これから、もう少し勉強させてください。 それから、放課後児童クラブについても、意見を聴かせてください。 放課後児童クラブでは、将来的に6年生まで預かることになったのですが、放課後児童クラブは、実は厚生労働省の管轄であるため、縦割り行政の弊害が出ているのです。サービスを提供する側だけで、物事を考えているというところが、非常に腹立たしい点です。自分の教え子が、学校が終わって放課後になったら、後は厚生労働省が勝手どうぞという先生は、一人もいないと思います。 だから、できるだけ学校の中で放課後児童クラブを設置した方がいいと考え、今、志度放課後児童クラブを増築しているところです。しかし、それは私の考えであり、放課後児童クラブは学校の外に設置した方が良いという意見があれば、今後の参考にしたいです。
教育委員	子どもからしたら、小学校の中に放課後児童クラブが設置されている方が、そのまま小学校に残っておけば良いので、安全だと思います。むしろ、小学校の外に子どもたちが行くという方が安全面で心配です。 高松市内などでは、放課後児童クラブがもう定員いっぱい、放課後に送迎バスに乗って老人介護施設へ行き、そこで入所の方と過ごすということ

	<p>やっているところもあるようです。そういったことなら、良いと思うのですが。</p>
市長	<p>津田小学校は、放課後児童クラブが津田町東部児童館にありますが、バスで送迎しているのですか。</p>
学校教育課長	<p>小学校から児童館までの送りだけです。</p>
市長	<p>帰りは、保護者が児童館に迎え行くのですね。</p> <p>私がいつも思うことは、学校の先生から「小学校の中で放課後児童クラブを実施してくれませんか。」という話を聞いたことがないのが不思議でたまりません。</p> <p>普通に考えれば、自分の教え子のうちの何人かが放課後児童クラブへ行っているのなら、その子たちの様子が気になりませんか。それこそ、校長室を改装してでも、もし小学校の中に放課後児童クラブがあれば、何かのついででも、その子たちがどのように過ごしているのか、ちょっと見に行けるじゃないですか。小学校でも是非してほしいという要望があってもおかしくないのに、そういった意見は出てこないのです。</p> <p>それくらい先生って疲弊しているのでしょうか。それとも、仕事が忙しすぎて、子どもの個人的なことまで構ってられないのでしょうか。</p>
教育長	<p>放課後、先生は休んでいるわけではないので、様々な仕事がたくさんあります。非常に忙しく、子どもを見ておくことができないのは、あると思います。</p>
市長	<p>子どもの面倒を見る必要はありません。職員室で仕事をされているのなら、トイレへ行ったりするときに、子どもの様子を見て一声掛けたりするだけでいいのです。そういった心配りはできないのでしょうか。</p>
教育長	<p>例えば、神前小学校では校舎と放課後児童クラブがつながっています。それが認められる条件として、通路の真ん中をシャッターで仕切ることでした。一定の時間がくれば、シャッターを下ろして鍵を掛けるようになっています。</p>
市長	<p>学校の空き教室を積極的に活用するように、文部科学省からも通知が出ているはずなのに、どうして利用しないのでしょうか。</p>
学校教育課長	<p>現実的にしていないのは、空き教室がそれほど発生していないからだと思われます。</p>
市長	<p>それは、空き教室がないことにしてしまっていることはありませんか。ほとんど使っていないくても週に一度使えば、それは空き教室ではないと判断していると思います。</p>
教育委員	<p>志度小学校では、同じ敷地内なので先生方が様子を見に行くことはあるみたいですよ。だから、先生が全く関与していないということはないと思います。</p>
市長	<p>同じ敷地内にあるからできることですよ。同じ敷地内に放課後児童クラブがないのであれば、それを要望する声が市長の私にももう少し聞こえてきてもいいと思うのですが。</p> <p>では、次に公民館について、皆さんの意見を聴かせてください。</p> <p>実は今、公共施設の再編計画が進んでいます。その中で、公民館の統廃合を行い、今ある公民館の3割を廃止しようとしています。いつまでにどこを統廃</p>

	<p>合するかというのは、まだ何も決まっていらないのですが、公民館の統廃合について、何かお考えがあれば教えてください。身近な公民館をイメージして考えていただけると幸いです。</p>
教育委員	<p>やはり、利用者が少なく、活用されてないところが統廃合されていくと考えるのでしょうか。</p>
市長	<p>必ずしもそうではありません。</p> <p>これから利用する価値があるかどうかということを基準に考えて、価値があるものについては、費用が掛かってでも建て替えや大規模改修をする必要があると思います。</p> <p>ただ、現在は、旧5町のバランスを取ることにばかりに重きを置いてしまっているの、それぞれの地区に平等に同じような規模の公民館がある状況です。誰一人として利用していない公民館があれば、それはすぐに廃止できるのですが、そういった公民館はありませんよね。これは、市内の温泉施設と同じような状況で、たくさん利用者がいるわけではないけれども、どの施設にも利用者が必ずということです。</p> <p>国の指針であるコンパクトシティー構想に沿って言えば、とりあえず集約化をして1か所に少し大きめの施設を造った方が、スケールメリットがあり、効率が良いのですが、各地域からどうやってその施設まで行くのかという、利用者の交通手段についても考える必要があります。</p> <p>最終的な目標としては、今ある公民館の半分を削減したいのですが、やはり、地域のバランスも勘案しながら、まずは少なくとも3割程度の削減を考えています。その辺りで、委員のお考えをお聴かせください。</p>
教育委員	<p>コンパクトにすると、先ほど市長が言われたように、車の運転ができない高齢者の方が、例えば公民館での大正琴の稽古に行きたいとなると、誰かに乗せて行ってもらうか、公共交通機関を利用しないと公民館には行けません。</p> <p>また、コンパクトにすることで施設が一新されたら、ますます公民館に行こうとする人が増えるのでしょうか、逆に、施設も遠いし、行くのも大変だから利用するのをやめようとする人が増えるのでしょうか。</p>
市長	<p>公民館の統廃合を検討するなかで、一つの案として、空き家の利用があります。大勢の人が入れるような大きな空き家を改修して、集会施設として利用するというのが一つの方法なのですが、ただそういった空き家は、めったにあるわけではないので、この方法では、抜本的な解決策にはならないですね。</p> <p>また、公民館がなくなったら、もう活動をやめるという団体もあると思います。公民館の費用対効果を考えなければいけない一方、社会教育活動を行う場としての公民館ということも考慮しなければいけません。</p>
教育委員	<p>コンパクトシティーの構想は、公共交通機関が潤滑に市全体を網羅していることが前提だと思うので、さぬき市でも、コミュニティバスなどが地域の隅々まで行き渡って皆が活用するというのであれば、一か所しか公民館がなくても問題はないかもしれないですが、今の状況で、それは有り得えません。</p>
市長	<p>そのとおりだと思います。</p>

教育委員	やはり、地域のバランスを見て、あまり使われていないところは閉鎖し、市内で厳選した5か所くらいにするのがいいと思います。
市長	5か所ですか。
教育委員	5か所でなくても構わないので、何よりも地域のバランスが大事です。
市長	支所と出張所の見直しというのも、全く同じ議論だと思います。うまく整理して解決する方法があったらいいのですが。 公民館について、他に御意見はありませんか。
教育委員	私が一番よく利用している公民館で考えてみると、頻繁に利用している団体は、10年前からほとんど変わっていない気がします。たぶん、この先も同じでしょう。今は、皆さんが車で来ていることもあり、結構遠いところから通っている方もいますが、これから10年後を考えたときに、今の状態のまま続けて通われている方が果たして何人いるのだろうか。 そういうことも考えると、どの地域にいくつ公民館を残しておいたらいいのかについては、今すぐに答えを出すことは非常に難しいです。
市長	公民館利用のための公共交通機関の整備が、必須ですね。 公共交通機関の一番の理想形は、環状線の内回り・外回りのように、中心地をループ式に回る形だと思います。さぬき市に当てはめるなら、市役所本庁を中心に、津田支所、大川支所、寒川支所、長尾支所へ寄り、また市役所本庁に戻って来る形です。もちろん、その途中で津田診療所や市民病院等では停車します。そうすると、右回りと左回りを1時間に1本ずつくらい出したと仮定しても、今のコミュニティバスに掛かる経費の半分くらいで済む試算が出ているのです。 しかしその方法では、例えば小田地区の人が市役所本庁に来ることができません。そういった問題もあり、各バス停までの交通手段をどうするかというところで行き詰っています。 コミュニティバス事業には、毎年さぬき市の一般財源を4千万から5千万円使っています。それがもし半分になれば、毎年2千万円、10年で2億円のお金が浮く計算になります。そうしてお金が浮けば、教育委員会が希望する事業にも、もっとお金を振り分けられると思うのです。もちろん、乗車運賃を値上げしたり、路線の整理をしたり、広告収入を得たり、国や県の補助金をもらったりと、様々な改善策は取ってきましたが、やはり毎年4千万円の経費というのは、非常にもったいないと思います。だから、これ以上の公共交通機関の整備は難しいところがあるため、公民館利用のための公共交通機関の整備についても、名案がなくて困っているのです。 教育長は、どのように考えますか。
教育長	私がいつも心配するのは、大川町の山手などで限界集落が多く、ここ10年のうちに非常に速いスピードで人口が減少している地区があります。ですから、更に10年後の人口分布がどうなっているのかを見極めた上で、考えるべきだと思います。
市長	要は、決断が遅くなってしまうことを、私は心配しています。あの時点で決

	<p>断しておけばもう少し傷が浅かったのにとということが、起こらないようにしたいのです。</p> <p>これまで私が実施してきたさぬき市の様々な事業は、90パーセントの人が賛成するようなことしか実行してきませんでした。しかしこれからは、49パーセントの人が反対していても、51パーセントの人が賛成していたら、実行を決断しなければならないこともあると思います。</p> <p>とりあえず、公民館の再編計画については、生涯学習課長が最善の案を検討してくれていると期待していますので、教育委員会にも、早めに案をお示ししたいと考えています。</p> <p>ではその他に、何か一般的な話でも構いませんので、市政や教育委員会に少しでも関係があることで、気になることがあれば、御発言ください。</p>
教育委員	<p>英語検定支援事業について、質問させてください。</p> <p>具体的には、5級から3級までの受検者に対して、各年度で1回、受検料の半額を助成するとなっていますが、英語検定は年間2～3回あるのではないですか。</p>
学校教育課長	そのとおりです。
教育委員	一人の生徒につき1回ということですか。
学校教育課長	そうです。一人の生徒につき、年度で1回の助成ということですか。
教育委員	<p>受検した回数だけ助成することはできませんか。もし、同一年度に受検した場合、4級を受検するときは助成があって、3級を受検するときは助成がないということですかよね。</p> <p>どうにか両方とも助成することは、できないのでしょうか。</p>
市長	例えば、3級を受けて残念ながら不合格だった場合、同一年度内にもう一度3級を受検する場合は、委員はどのようにお考えですか。
教育委員	<p>英語検定を受検しようとする子に対しては、何度でも助成を認めてほしいです。毎回助成してくれるようにしたら、たくさんの子が受検すると思います。</p> <p>そうなったら、困りますか。</p>
市長	<p>いえいえ、困ることはありません。</p> <p>でも、本当にそれで受検者は増えるのでしょうか。</p>
教育委員	助成してくれるのであれば、何回でも受けようと思うはずですよ。
学校教育課長	それほど受検者が増えることは、こちらでは想定していません。
市長	もし、本当に受検者が増えるのであれば、やるべきですよ。
教育委員	私も、そう思います。
市長	助成をもらいたいからと言って、いい加減に受検する人は、最初から受検しないはずですよ。助成をもらえるといても、受検料の半額は自己負担しなければいけませんからね。
教育委員	予算上では、どれくらいの受検者数を見込んでいますか。
学校教育課長	市内中学校に通学する生徒の半数程度です。
教育委員	半数程度の生徒が1回受検できるということは、かなりの人数ですね。
教育長	600人程度です。

学校教育課長	これは、英語に対する意識を高めるとともに、英語に親しんでもらうきっかけづくりを目指した助成制度であり、英語検定に合格すること自体は目的ではありません。
教育委員	英語検定に合格すると高校に受かりやすいと思っている子どもたちが結構多いので、受検しようとする子どもは、多いのではないのでしょうか。
市長	高校に受かりやすいというのは誤解ですが、それは良い誤解ですよ。勉強するのは良いことです。
教育長	実力がなければ、英語検定にも合格できませんし。
市長	受検料というのは、受検する級によって違うのですか。
教育長	違います。
教育委員	級が上がると、受検料は高くなります。
市長	例えば、この助成制度では、何級を受検しても構わないのですか。
教育委員	助成対象となるのは、3級までです。
学校教育課長	この助成は、中学校で実施が可能な5級から3級までしか想定していません。3級よりも上の級になると、指定された会場へ行って受検しなければいけません。
市長	意欲のある人を、助成対象から外さなくてもいいのではないのですか。
学校教育課長	先ほど申し上げたとおり、この助成制度は、あくまでも英語を学ぶことに対するきっかけづくりを目的としているため、対象は3級までとしています。
教育長	まずは制度を導入してみて、3級より上位の級を受検する場合については、今後検討してみるのはいいかもかもしれませんね。
市長	3級とは、どれくらいのレベルですか。
教育委員	中学校卒業程度です。
市長	5級から始まり、だんだんと難しくなるのですね。
学校教育課長	難しくなりますし、級が進むと、リスニングや面接試験も追加されます。
市長	中学生で準2級以上を取得することは、難しいのでしょうか。
教育委員	合格する子もいますが、それは非常に難しいですね。
教育委員	英語の得意な中学生であれば、3級取得で普通です。
市長	じゃあ、受検するのが小学生の場合はどうするのですか。それは、助成対象外としているのですか。
学校教育課長	はい、今のところは対象外ですが、それについても、今後の検討課題としています。
教育長	小学生だと、学校ではなく、個人受検となりますから。
市長	3級を受検して不合格となり、同一年度で再受検するときにも助成制度を認めるというのは、少し合理性に欠ける気がします。4級を受検して合格し、次回3級を受検する場合は、助成を認めたらいいと思います。
教育委員	年度が違えば、いいですよ。
学校教育課長	年度に1回限りなら、大丈夫です。
市長	同一年度内であっても、その場合は認めたらいいと思います。
学校教育課長	それは、要望事項として今後検討します。

教育委員	それで受検する人数がものすごく増えたとしたら、それは大変喜ばしいことですね。
市長	この助成制度で、努力した子が報われるというのなら、積極的に実施したらいいのではないですか。何か不都合なことはありますか。
教育長	それは、英語の先生がどれだけ携わってくれるかということも影響します。
市長	英語の先生が関わらないと受検できないのですか。
学校教育課長	そうではありませんが、現在の案では、外部に受検しに行くのではなくて、中学校で実施するものについて助成対象とする予定なので、英語の先生の協力は必須となります。
市長	どのようにすれば、学校で受検できるのですか。
学校教育課長	英語検定本部から送られてくる教材を用いて、放課後などに学校で検定試験が実施できます。
市長	学校を受検会場とするには、なにか要件が必要なのですか。学校単位で申し込めば良いのでしょうか。
学校教育課長	いくつかの要件はありますが、中学校であれば受検会場とすることが可能です。ただ、その試験を実施するときに、教育長が言われたように、英語の先生が携わって、試験官の役割をしなければいけません。 今のところ、市内の中学校で英語検定を実施しているのは、さぬき南中学校だけです。
市長	志度中学校と長尾中学校で実施されていないのは、英語の先生が忙しすぎるからですか。試験に要する時間は、数時間ですよ。その時間も作り出せないほど忙しいのでしょうか。
学校教育課長	先生の忙しさだけではなくて、英語検定を重要視するかどうかについて、各中学校の英語の先生の考え方が影響していると思います。 今回は、この助成制度を始めることによって、市内の全中学校で英語検定を実施してほしいという狙いがあります。
市長	では、助成制度の対象を5級・4級・3級の受検に限定している理由は、何かありますか。
教育委員	3級より上位の級になると、リスニングや面接試験が入ってくるからではないですか。3級までは、中学校のみで実施できます。
市長	段階を踏まずに、いきなり3級を受検してもいいのですか。
学校教育課長	それは、構いません。
教育委員	ある程度の実力があれば、3級をいきなり受けても良いと思いますし、受けている人も実際おられます。
市長	小学校まで広げると、導入としてはやはり煩雑になるので、原則として同一年度に1回の助成とする方がいいですね。ただし、特別に教育長が認める場合は、準2級以上の受検者に対しても助成を認めるのはどうですか。予算も、現在の案の倍を見込めば、十分対応できるのではないのでしょうか。
学校教育課長	はい。十分できます。
市長	それよりも、助成金制度のための予算措置をしたのに、受検者があまり増え

	なかったということが起こらないかが心配です。
教育長	英語検定に対する意欲度を計るためにも、まずは、試行期間として1年か2年くらい様子を見たいと考えています。それで、どんどん受検者が増えてくるようであれば、支給対象を広げてはどうでしょうか。
市長	例えば、5級を受検して、同じ年度で4級を受検するのは、助成したらいいのではないですか。しかし、3級の同一年度の再受検は、助成対象外でいいのでは。その方が、受検者の動機付けにつながると思います。
教育長	当初のこちらの要望は、市長が言われたとおりであったのですが、予算的に厳しいということで、年度内1回限りということにしています。
市長	受検料は、いくらですか。
学校教育課長	市内中学校を試験会場として実施する場合、受検料は5級2,000円、4級2,100円、3級3,400円です。
教育委員	絶対受検しないという生徒も、2割くらいいると思います。
市長	もっといるのではないのでしょうか。 でも、今まで英語に興味のなかったのに、この助成制度で、英語検定を受けてみようと思ってくれた子が少しでもいたら、すごい進歩だと思いませんか。
教育長	本当に、良いことです。
市長	それに、もしかしたら2年生でも、3級に合格する生徒が出てくるかもしれませんね。そうなったら、すごいじゃないですか。そういった場合は、3級より上位の級を受検する場合にも、何か助成したいですね。 他に、その他として何かないですか。
教育委員	小さなことですが、読書通帳についてです。今年度予算にも入っていますが、市内の幼稚園、小学校、中学校と配布するものですね。 実は、小学校には読書ファイルというものがあり、各学年でどんな本を読んだのか、記録を残しているはずですが。中学校では、小学校のような読書ファイルがないので、読書通帳に記録していくことに意味があると思うのですが、小学校は、読書ファイルと読書通帳で、重複して記録しなければならないことがあるらしく、どのように読書通帳を活用したら良いのかと学校現場では困っているそうです。また、読書通帳は、幼稚園、小学校、中学校で配布して残った余剰分を一般の方に配布しているようなのですが、そうではなくて、一般の方に対してこそ、もっと積極的に配布してみてもどうでしょうか。そうすることで、図書館に行って本を借りている人は、もっと図書館を訪れて本を借りようというように、本に親しむきっかけになるのではと思います。
市長	実際にはどうですか。読書通帳を求める市民は、たくさんいますか。
生涯学習課長	昨年度は、秋の読書週間に合わせて配布するようにしましたが、さほどの配布数には至っていません。
市長	その配布というのは、希望者に申請してもらうのですか。
生涯学習課長	申請と申しますか、図書館の窓口で申し出てもらうだけです。
市長	先ほど委員が言われた読書ファイルとは、どのようなものですか。
生涯学習課長	小学校で使われており、読書ノートと呼ばれることもあります。学校の図書

	<p>室で借りた本は、読書ファイルに記入しているはずですが、読書通帳については、記入に当たってのルールは特に指定していないので、学校にお任せしているのですが、学校によっては、本屋で購入した本について記入するなど、限定して使われている事例もあります。</p>
市長	<p>その読書ファイルをやめて読書通帳に一本化するという話になれば、またいろいろ問題がありますよね。読書通帳と読書ファイルで、これまでどおり並列的に取扱いをした方が、一番手間が掛からなくて済むのかなと思います。</p> <p>それから、委員が言われたように、残った読書通帳を配布するのではなくて、もっと積極的に配布すべきだという話ですが。</p>
教育委員	<p>希望者だけに配るのではなくて、図書館の窓口に来た人全員に配布するくらい積極的なものであっても良いのではないのでしょうか。</p>
市長	<p>それは、既にそのように配布しているのではないですか。</p>
生涯学習課長	<p>特典というものは特にありませんが、希望者に対して、通帳の更新はしています。</p>
教育委員	<p>読書通帳を活発に利用している学校の図書室では、余分が欲しいけれどないので、在庫をコピーして使用しているということを知ったことがあります。</p>
生涯学習課長	<p>学校から申し出があれば、学校へ送付しますし、個人には図書館の窓口で配布しています。</p>
市長	<p>ちなみに、読書通帳の予算は、どれくらい組んでいるのですか。</p>
生涯学習課長	<p>436,000円です。</p>
市長	<p>その配布数を5,000部くらいにすれば、あとどれくらい予算が必要ですか。</p>
生涯学習課長	<p>50万円程度だと思います。後は、用紙代だけです。</p>
市長	<p>読書通帳は、年度によって表紙の色が違うのですか。要するに、余ったら困るかどうかです。</p>
生涯学習課長	<p>表紙の色は、毎年同じです。</p>
市長	<p>余ったものは、翌年度に繰越しできますね。</p> <p>そうであれば、2年度分を一度に作成してみてもどうですか。それで、実際に足りなくなるようなら、またそのときに考えましょう。</p> <p>私は、読書通帳を見たことがないのですが、どのような感じですか。</p>
教育委員	<p>さぬき市のマスコットキャラクター「さっきー」が表紙に載っていて、かわいらしいですよ。</p>
市長	<p>それでは、せっかく委員から読書通帳についての積極的な御意見をいただいたので、来年度予算で2年度分を作成してみましよう。</p> <p>しかし、残念ながら現状は、委員が言うほど図書館で本を借りていないように思われます。子どもにだけは、本を読みなさいと言いながら、親は横でテレビを見ているというのが、一般的な家庭の風景であるような気がしているからです。</p> <p>だから、私が言いたいのは、子どもに本を読みなさいと言うのは構いませんが、せめて子どもが寝るまでは、子どもと一緒に本を読みませんかということ</p>

	<p>です。家族一緒に読書をするなど、家族揃って同じことをする時間を設けられたら、非常に有益だと思います。</p> <p>では、他に御意見はありませんか。</p>
教育委員	ありません。
市長	ないようでしたら、本日の総合教育会議を閉じたいと思います。
閉会	
教育部長	以上で、平成29年度第2回さぬき市総合教育会議を閉会します。